

みずほマーケット・トピック(2023 年 10 月 20 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

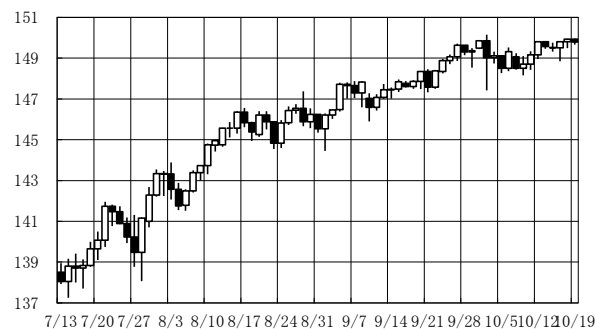
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、米金利が騰勢を強める中、上昇基調で推移も、節目の150円を前に上値は押さえられた。週初16日、149.55円でオープンしたドル/円は、材料に欠ける中、149円台半ばでレンジ推移。海外時間は、米金利上昇を受け149円台後半に強含む場面もあったが、その後は伸び悩み149円台半ばに往って来い。17日、ドル/円は149円台半ばで方向感なく推移。海外時間は、日銀が月末の会合で来年度にかけての物価見通しを上方修正するとの報道を受け、円買いから一時週安値となる148.75円に急落。もともと、すぐに水準を戻し、米9月小売売上高の強い結果を受けた米金利続伸も相まって、150円を目指す展開となった。18日、ドル/円は下に往って来い。海外時間は、米金利が騰勢を強める中で、150円手前に上昇した。19日、ドル/円は日本株の軟調推移を横目に149円台後半でじり安推移。海外時間は、パウエルFRB議長の会見を控える中で警戒感からドルが買われ、一時週高値となる149.95円に上昇も、警戒されていたほどタカ派ではなかったことが材料視され、米短期金利が低下する流れに合わせやや値を戻して引けた。本日のドル/円は、引き続き149円台後半での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは、パウエル議長の発言を受けた米短期金利低下を背景に、一時1.06台を回復した。週初16日、1.0521でオープンしたユーロ/ドルは、リスクオフ後退に伴う欧州株高や独金利上昇を背景に、1.05台半ばに上昇した。17日、ユーロ/ドルは、独10月ZEW景気期待指数の市場予想を上回る結果を受けた独金利上昇を横目に、1.06手前に上昇した。18日、ユーロ/ドルは、中東情勢悪化懸念を受けた欧州株安や、米金利上昇を受け1.05台前半に下落した。19日、ユーロ/ドルはパウエル議長が追加利上げに対し強い示唆を行わなかったことが好感され、米短期金利が低下する流れに合わせ、一時週高値となる1.0617に上昇した。本日のユーロ/ドルは、ドル売りの一服を受け、1.05台後半での取引となっている。

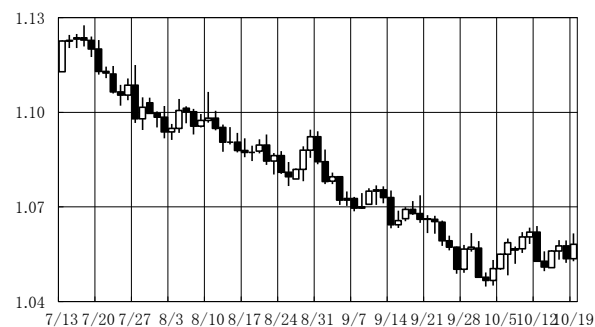
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		10/13(Fri)	10/16(Mon)	10/17(Tue)	10/18(Wed)	10/19(Thu)	
ドル/円	東京9:00	149.78	149.55	149.59	149.76	149.78	
	High	149.84	149.76	149.85	149.94	149.95	
	Low	149.46	149.33	148.75	149.49	149.67	
	NY 17:00	149.56	149.52	149.80	149.93	149.79	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0537	1.0521	1.0556	1.0573	1.0538	
	High	1.0558	1.0565	1.0595	1.0594	1.0617	
	Low	1.0496	1.0504	1.0533	1.0523	1.0528	
	NY 17:00	1.0509	1.0561	1.0576	1.0537	1.0582	
ユーロ/円	東京9:00	157.81	157.33	157.88	158.33	157.80	
	High	158.04	157.99	158.65	158.52	158.90	
	Low	157.07	157.19	157.45	157.70	157.70	
	NY 17:00	157.17	157.88	158.48	157.97	158.56	
日経平均株価		32,315.99	31,659.03	32,040.29	32,042.25	31,430.62	
TOPIX		2,308.75	2,273.54	2,292.08	2,295.34	2,264.16	
NYダウ工業株30種平均		33,670.29	33,984.54	33,997.65	33,665.08	33,414.17	
NASDAQ		13,407.23	13,567.98	13,533.75	13,314.30	13,186.18	
日本10年債		0.76%	0.75%	0.78%	0.81%	0.84%	
米国10年債		4.62%	4.70%	4.84%	4.91%	4.99%	
原油価格(WTI)		87.69	86.66	85.44	87.27	88.37	
金(NY)		1,941.50	1,934.30	1,935.70	1,968.30	1,980.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、26日(木)に7～9月期GDP(速報)が公表予定となっている。4～6月期の結果(確報)は、前期比年率で+2.1%を記録し、1～3月期の同+2.2%から僅かな減速に留まった。もっとも、内訳を寄与度ベースで確認すると、そこまで強いわけではない。設備投資(+0.98%)や政府支出(+0.57%)で成長率がかさ上げされた側面は否めず、個人消費は+0.55%の寄与に留まった。金融引き締めによる需要抑制効果や過剰貯蓄取り崩しを背景に、家計の消費欲が弱まっているのだろう。ただ、7月から9月にかけての経済指標を確認する限り、経済に目立った失速は確認されておらず、FRB高官もその強靱さに懸念を示す事態に至っている。ただし、金利の高止まりやエネルギー価格反発に加え、学生ローン返済が再開されたことを考えれば、年末から来年にかけては成長率が鈍化する公算が大きい。なお、7～9月期GDP(速報)の結果に関しブルームバーグの事前予想では、+4.3%(前期比年率)と見込んでいる。
- 欧州では、26日(木)にECB政策理事会が開催される。9月会合では+25bpの利上げを決定した。声明文では「インフレ目標回帰に多大なる貢献をすると考えられる水準に政策金利が到達し、それが十分長期間維持された」と「事実上の利上げ停止宣言」に踏み切った。ラガルドECB総裁自身、この文章を「決定的なもの」と表現するとともに、焦点は水準ではなく期間の方に移ってきていると述べた。もちろん、不確実性が残ることから「ピークに達したとは言えない」とけん制したが、この文言を抱えながら追加利上げをするには大きな想定外の事態が必要になるだろう。同会合の議事要旨においても、利上げ判断は極めて微妙だったとしつつも、インフレ鈍化を歓迎する声が目立っており、10月会合ではやはり政策金利の据え置きが見込まれる。もっとも、利上げ停止とも言えるような情報発信は踏み込み過ぎではないか。ECBは賃金と物価の負のスパイラルに収束の兆しがあるとしているが、それは断言できるだけの材料に乏しく、「状況に応じて利上げできる」という可能性は文面に残すべきであったようにも思われる。

	本 邦	海 外
10月20日(金)	・9月消費者物価指数	・独9月生産者物価指数
23日(月)	—————	・ユーロ圏10月消費者信頼感(速報)
24日(火)	・10月製造業/非製造業PMI(速報)	・独11月GfK消費者信頼感 ・ユーロ圏10月製造業/非製造業PMI(速報) ・米10月製造業/非製造業PMI(速報)
25日(水)	・8月景気動向指数(確報)	・独10月IFO企業景況感指数 ・米9月新築住宅販売件数
26日(木)	・9月企業向けサービス価格指数 ・9月工作機械受注(確報)	・ユーロ圏10月ECB政策理事会 ・米7～9月期GDP(速報) ・米9月耐久財受注(速報)
27日(金)	・10月東京消費者物価指数	・米9月個人所得/支出 ・米9月個人消費支出デフレーター ・米10月シガン大学消費者マインド(確報)

【当面の主要行事日程(2023年10月～)】

ECB政策理事会(10月26日、12月14日、1月25日)

日銀金融政策決定会合(10月30～31日、12月18～19日、1月22～23日)

FOMC(10月31日～11月1日、12月12～13日、1月30～31日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2023年10月19日	本邦9月貿易統計～起きるべくして起きた23年の円安～
2023年10月18日	再び直面する天然ガスリスク～ユーロ安考察～
2023年10月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分)
2023年10月13日	週末版(日独GDP逆転について～「弱い円」が原因としても・・・)
2023年10月12日	カネ関連収支でも拡がるサービス赤字
2023年10月11日	赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引
2023年10月10日	円安シナリオを延命させる中東リスク
2023年10月6日	週末版
2023年10月5日	「底打ち懸念」も漂う米経済～米金利上昇の考え方～
2023年10月4日	続・インフレを輸入する日本～「人手不足」の波～
2023年10月3日	ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について
2023年10月2日	インフレを輸入する日本～インフレ持続性の考え方～
2023年9月29日	週末版
2023年9月26日	円安シナリオを長続きさせる貿易赤字
2023年9月25日	日銀金融政策決定会合～マイナス金利解除の行方～
2023年9月22日	週末版
2023年9月21日	FOMCを終えて～「2024年こそ利下げの年」という危うさ～
2023年9月20日	23年4～6月期資金循環統計～「貯蓄から投資」の胎動～
2023年9月19日	「欧州の病人」は戻って来たのか？
2023年9月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「事実上の利上げ停止宣言」の読み方～)
2023年9月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年8月分)
2023年9月13日	ECB政策理事会プレビュー～「見送り+ α 」の公算～
2023年9月12日	日銀の政策運営に関するQ&A～読売報道を受けて～
2023年9月11日	7月国際収支の読み方～為替需給変わらず～
2023年9月8日	週末版
2023年9月7日	日本の貿易収支が直面する2つの想定外
2023年9月6日	海外出張で体感した内外価格差について
2023年9月4日	BRICS共通通貨は「いつか来た道」
2023年9月1日	週末版(ECB政策理事会議事要旨と8月消費者物価指数について～9月利上げの行方～)
2023年8月30日	夏を終えても変わらなかった円の独歩安
2023年8月28日	ジャクソンホールで浮き彫りになるインフレに対する「当事者」感
2023年8月25日	週末版
2023年8月24日	ユーロ圏経済の悪化とユーロ相場の現状
2023年8月23日	なぜ購買力平価は使えなくなっているのか
2023年8月22日	力強さが続くユーロ圏の雇用・賃金情勢
2023年8月21日	「持たざるリスク」に直面する日本の家計部門
2023年8月18日	週末版(本邦7月貿易収支を受けて～中国不振が阻害する収支改善～)
2023年8月17日	本邦4～6月期GDPの読み方～冴えない内需～
2023年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年7月分)
	年初来安値を確認する円の立ち現在地
2023年8月14日	再投資柔軟化から1年～フランスに並んだイタリア～
2023年8月10日	週末版(アマゾン「プライム」値上げの意味するもの～デジタルサービスへの外貨流出～)
2023年8月9日	緩和持続を約束する実質賃金の低迷～円安の余韻～
2023年8月8日	23年上半期の国際収支統計を受けて～CFベースでは赤字～
2023年8月7日	マイナス金利解除の実現可能性～日銀に迫る円売りゲーム～
2023年8月4日	週末版
2023年8月2日	ユーロ圏経済の近況～経済・物価情勢はECBハト派化を示唆～
2023年7月31日	日銀会合を終えて～今後の課題は「円売りによる挑発」～
2023年7月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～急速に薄らいだタカ派色～)
2023年7月27日	FOMC(7月25～26日)を終えて～現状維持に備え～
2023年7月25日	日銀金融政策決定会合(7月27～28日)プレビュー
2023年7月21日	週末版(正常化が近づくインバウンド需要～労働で稼いだ外貨はどこへ行くのか・・・)
2023年7月20日	23年上半期の貿易収支を受けて～構造変化を直視～
2023年7月19日	残る円安・資源高の余波～物価「変化率」だけでなく「水準」も～
2023年7月18日	ICEドルインデックスの100割れをどう読むべきか？
2023年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年6月分)
	週末版
2023年7月13日	実効ベースで見た為替相場～最強「フラン」と最弱「円」～
2023年7月12日	円高の読み方～自律反発後にどこまで戻るか～
2023年7月11日	経常収支の正しい読み方～符号ではなくキャッシュフローを～
2023年7月10日	イノベーションボックス税制はBrain freezeの処方箋か
2023年7月7日	週末版(金利差拡大で円安が進まない背景～日本株下落とポジションの偏り～)
2023年7月6日	「投機の円売り」と「夏枯れ相場」～進むキャリー取引～
2023年7月5日	ユーロ圏6月消費者物価指数～雇用・賃金情勢の逼迫～
2023年7月3日	シミュレーション進む「ドル抜きの世界」～COFERの近況～
2023年6月30日	週末版
2023年6月29日	金融政策と通貨政策、動くのはどっちが先か
2023年6月27日	23年3月末時点の「資金循環統計」を受けて
2023年6月26日	「2005～07年の円安バブル」と現在の違い
2023年6月23日	週末版
2023年6月22日	ECBは利上げ停止後に何をするつもりか
2023年6月21日	「Brain freeze(思考停止)」と研究開発サービス赤字
2023年6月20日	「2030年までに対内直接投資残高100兆円」の現実味
2023年6月19日	日本、「監視リスト」除外の読み方～国力低下の象徴～
2023年6月16日	週末版(ECB政策理事会を終えて～we're not at destination～)
2023年6月15日	FOMCを終えて～追い詰められる円高見通しと年内利下げ～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年5月分)
2023年6月14日	日銀はいつ動くのか～円安抑止策としてのYCC修正可否～
2023年6月13日	家計金融資産の「開放」は何を意味するか～骨太の方針～
2023年6月12日	FRBは他国・他中銀から影響を受けるのか？
2023年6月9日	週末版
2023年6月8日	本邦4月国際収支統計を受けて～「新しい赤字」の影～
2023年6月7日	ユーロ圏のインフレ期待について～6月会合プレビュー～
2023年6月6日	「弱い円」への諦観は日本人を動かすか？
2023年6月5日	米5月雇用統計を受けて～遥か遠のく年内利下げ～
2023年6月2日	週末版(コアベースでも鈍化し始めたユーロ圏インフレ率～ハト派転化には十分と言えず～)
2023年6月1日	FRB、6月利上げ見送りの受け止め方～円高到来か？～
2023年5月30日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～賃金は峠、エネルギー環境は脆弱～
2023年5月26日	週末版(32年連続世界最大の対外純資産国の意味～過去最高を記録した直接投資比率～)
2023年5月24日	構造的に薄れるPPPを見る意味～「成熟した債権国」と共に～
2023年5月23日	「世界中が欲しがらる財・サービス」は「高嶺の花」～「弱い円」の価値～
2023年5月22日	資産価格が上がっているのか、円が下がっているのか
2023年5月19日	週末版